



「播磨 祭り到来！」

10月の声を聞くと、血が騒ぐという人が少なくないと思います。播磨地域が独特の雰囲気になる季節が到来しました。地域の祭りが、1年間のサイクルになっているところもあります。祭りの多くは10月の体育の日を中心に開催されることが多くなってきました。昨今は、祭り本来の由緒の日に祭りが催されることがなくなってきたので、本来の意義を知らないことも多くなってきました。加古川市だけでも13の祭りが予定されています。その内、10月に行われるのが、9団体あります。

播磨は昔ながらの様式などを残した祭りが存在し、無形文化財に指定される貴重なものがいくつかあります。加東市の上鴨川住吉神事舞は国指定無形民俗文化財で、非常に貴重なものです。宮座制のもとで、伝承されてきた神事芸能で、中世の田楽、能舞などの遺風をよく伝えるものとして貴重です。



高砂市の曾根天満宮の一寸物は、兵庫県無形民俗文化財に指定されています。平安時代の都でみられる「ヒトツモノ」（特別な扮装をした童児が中心的な位置を占める）の様式を残す数少ないものです。

さて、「ダシ」「ヤタイ」などのことばを聞くとと思いますが、何でしょうか？山車（だし）は祭礼の際に引いたり担いだりする出し物の総称。ヤマ、曳山、車のつくものはダンジリ（地車、檀尻、段尻など）と呼ばれ、関西地方に多くみられます。他に珍しいものとしては赤穂市の坂越の船祭り（国指定）や神戸市須磨区の車大歳神社の翁舞（国指定）があります。特に播磨地域に多くみられるのが、獅子舞と屋台行事です。

最後に、加古川市では鶴林寺鬼追いが加古川市無形民俗文化財に指定されています。毎年1月8日に開催されるこの行事には、多くの見物客と同時に少なくない研究者の姿を見受けるほど貴重なものです。ぜひ一度みてほしいものです。ちなみに鶴林寺住職は、加古川北高校11回生の卒業生です。

地域の絆を改めて感じる季節となりました。さあ、生の文化にふれてみてはいかがでしょうか。